

音環境の測定のレポートについて

相変わらず，できの良いレポートが多く，感心しました。色をたくさん使う人が多いというのが特に感じた印象でしょうか。ただ，やはり幾つかの点では，問題があるところもありましたので，下記に挙げておきます。今後，気を付けてレポートを作成してください。

- 1) 算出した指標に応じた，適切な評価基準を適用しましょう。配付資料 46 ページの表 9 - 3 などは，50%時間率騒音レベルに用いる基準ではなく，等価騒音レベルに用いる基準です。
- 2) 相変わらず，評価基準などの出典を明記していない人が数多く見られました。今取り組んでいる実験では，レポートを読む教員も事情がわかっているから大丈夫ですが，卒業論文などでは，必須です。きちんと出典を書きましょう。
- 3) 測定方法などは，もれなく記述しましょう。2)とも関係しますが，他人がそのレポートを読んで，レポートの内容を再現できるように書くことが，特に実験系のレポートの基本です。
- 4) 図のタイトルは，図の下側。表のタイトルは，表の下側に。いつも言っていることです。
- 5) 段落の最初は，一字ぶん下げましょう。そのためには，「インデント」や「タブ」などの機能を上手に使いこなしましょう。
- 6) できるだけ，階層構造になるようにレポートを組み立てましょう。「1 .」, 「(1)」, 「1)」, 「・」, 「」, 「」などの記号を上手に使いましょう。
- 7) できるだけ，1本のレポートの中では，体裁を統一しましょう。例えば，フォントを統一する，行間をあける場合は，あける際の決まりを統一する，などです。
- 8) 単位を書くのを忘れないでください。いつも言っていますが，未だに書き忘れたひとがいました。
- 9) 一般的でない基準や，場合によって使い分けるべき基準を適用する場合は，なぜその基準を使ったのか，理由を書いておきましょう。
- 10) 一文が長いと読みにくいので，適当に切りましょう。
- 11) 感想と考察を分けて書きましょう。
- 12) 「話し言葉」で書いても良いのは，感想のみです。それ以外は，できるだけ「書き言葉」で書くように努力しましょう。